

『かたらい広場』

日 時 平成 26 年 10 月 20 日 (月)
午前 10 時 30 分～午前 11 時 30 分
会 場 龍ヶ崎市役所市長室
団体名 小貝川・花とふれあいの輪 (9 人)
市 中山市長 松田室長 大久保室長補佐 佐々木課長補佐

【主な意見の要旨】

○団体

- ・市が管理している公園等の施設の中には、管理の行き届いてないところがあります。身近なところでは、市役所入口の丸いプランターには、雑草が生えているだけとなっています。
- ・私たちは、地域の皆さんに喜んでもらうため、小貝川の土手のところで花植え活動をしているボランティアです。
- ・花植えをしている場所は龍ヶ崎市の入口に当たり、常磐線からもよく見えるところにあります。ここに花を植え人が集う公園にしておくことが、市のイメージアップにつながると考えています。
- ・市としては、私たちの花植え活動をどのように感じていますか。

○市長

- ・龍ヶ崎市は竜ヶ崎ニュータウンの開発など、良好な住宅地が整備され、この中で公園の整備も進められてきました。また、近年では、総合運動公園の整備が終わりつつあり、これまで整備した公園は、人口一人当たりの整備面積では、国の整備基準を上回る状況にあります。
- ・本市では、公園等は作る時代は終わったものと理解しており、これからは、公園等ができた当初の状態を維持できるように管理していくことが必要であると考えています。
- ・市では、公園や道路の植栽などの草刈りや木の剪定等を行っているところですが、これだけでも多額の費用を要しています。
- ・現在、市の公園等は、里親の方たちのご協力をいただきながら、維持、管理に努めているところです。
- ・小貝川・花とふれあいの輪の皆さんが行っている活動は、地域の方の憩いの場所として、さらには市の入口という場所にも当たり、市のイメージアップに大変貢献していただいているものと考えております。
- ・市役所の入口のところの丸いプランターについては、確認し対応していきたいと思えます。

○団体

- ・市の公募補助金制度、協働事業提案制度と補助金をもらいながら活動をしてきましたが、今年で補助金がもらえなくなり、これまでと同じような花植えができなくなります。
- ・市の補助制度は、期限付きの補助制度となっています。私たちの活動

のように継続して行われる活動には、補助が打ち切られることで、活動の継続が危ぶまれることとなります。

・補助制度は、補助対象となる事業の性格なども考慮して、継続的な事業については、継続的に補助金を出していただけるような制度とすることを検討をしていただきたい。

○市長

補助制度について、以前に抜本的に見直しました。全ての補助を0ベースで見直しを行い現在の補助制度となった経緯があります。

○市

市では、新たにまちづくりポイント制度を創設していますので、ご利用いただきたいと思います。

○団体

・小貝川で花植えをしている場所は、以前には不法投棄があり、草が生い茂るだけの場所でした。今は、花を植えることで、近隣住民の憩いの場所となり、散歩に来る方からは綺麗になったと言われています。

・これまでの実績があるにも関わらず補助金を打ち切られることになる、これまでと同じような花植え活動ができなくなります。

・補助金については、申請、実績報告と書類の作成に苦勞しているの、簡素化をお願いします。

・市民活動センターは指定管理者制度となりましたが、私たちの花植えも指定管理者制度と同じように、管理するための費用を受け取ることはできませんか。

○市長

・補助金の申請や実績報告書の作成については簡素化を進め、今は最低限の書類の提出をお願いしているものと考えています。市では、監査委員による監査や市民の方に理解を得るために最低限必要とされる書類であるとと考えています。

・市からの補助は、今年で終わることになっていますが、花植えをしている場所は、国が管理する小貝川の堤防にあたる場所です。国からの補助金はもらえないのでしょうか。

・市民活動センターは市が管理している施設で、市に代わって管理を民間にお願いしているものです。花植えをしていただいているところは、国が管理する場所で、市で指定管理者をお願いするということにはなりません。

○団体

・以前は、国等からも補助金を受けていた。現在は、貰えなくなっている。

・現在は、セブンイレブンの補助金と市の補助金をもらっている。

○市長

- ・国等に該当する補助金があるかどうか、担当課に確認させます。
- ・補助金の延長はできませんが、他の方法を担当課で検討しているところ です。

○団体

- ・補助金がなくなれば、今までのような花植えができなくなる。これからは、規模を縮小していかなければなりません。
- ・近隣住民の散歩コースになっており、市民の憩いの場として認知されていると考えております。これまで同様の花植えができるように、市の対応を検討してほしい。
- ・私たちの団体も高齢化が進み、新しい人が加入せずに世代交代ができずにおり、いつまでもこの活動ができるかわからない状態です。
- ・最近の人たちは、会社を退職すると経済的に恵まれているためか、働くことがないようですが、ボランティア活動や地域貢献活動をする こともなく、自分の好きなことだけをしている。

○市長

- ・市としては、会社を退職された団塊の世代の人に地域貢献活動やボランティア活動にも参加してもらいたいと考えています。
- ・私の年代もボランティア活動や地域活動をしている人が少なく、皆さんのような先輩方を見習って地域活動に、そしてボランティア活動に目を向け、活動をしてもらいたいと考えています。

○団体

- ・団体が活動を始めた20年前には70人ほどの人が参加し活動をしていました。若い男性もいましたが、今では若い人が全くいない状態です。このままだと私たちの団体がなくなり、花植え活動ができなくなります。
- ・「りゅうほー」に私たちのボランティア活動への参加者募集を掲載してもらいましたが、誰も集まりませんでした。「りゅうほー」は市民に対する情報発信能力が低下したのかもしれない。以前は、たくさんの人が集まりました。

○市長

- ・ホームページ、フェースブックなど情報発信の方法が多様化し、情報を得る側も同様です。「りゅうほー」も昔は、情報発信の方法としてはとても有効でしたが、情報発信の方法が多様化したため「りゅうほー」だけでは、大きな効果は期待できないと考えています。
- ・震災のときの話では、3月というところで窓を締め切りにしていた方が多く、防災無線が放送されていることが分からなかった方がいました。市では、ホームページ、メール配信、ツイッターなど多様な方法で情報発信を行ったところです。
- ・震災のときには、市に対する要望などが予想より少なかった、それは自分自身も地域に貢献することもないが、地域に期待することもしなく、自分のことは、自分で行う自己完結型の人が多いということかもしれません。

- ・これからは、サイレントマジョリティーといわれる人から、意見を聞く努力が求められていると考えています。
- ・市としては、普段行政に対して意見を言わないような人のために、広聴機能の強化を進めています。市長への手紙、地域ごとの意見交換会、インターネット市政モニター、今年から始めた、かたらい広場などです。

○団体

- ・ご当地メシ日本一になった「龍ヶ崎コロッケ」を活用して、龍ヶ崎市の名前をもっと広めると良いのではないか。
- ・佐貫駅を乗降する人に「龍ヶ崎コロッケ」を買ってもらうことも必要だと思いますが、佐貫駅でコロッケを買って食べる場所がありません。
- ・佐貫駅の観光物産センターに置いてある「龍ヶ崎コロッケ」は、冷凍のコロッケで駅で食べることはできません。

○市長

- ・佐貫駅に、「龍ヶ崎コロッケ」の特設ブースを設けては、との意見もありますが、佐貫駅のところで人が止まってしまい、龍ヶ崎市の中心市街地に人が来なくなってしまうという声もあります。

○団体

- ・ファーストフードとして、「龍ヶ崎コロッケ」を売り出してはどうか。
- ・コロッケバスを企画して、ミステリーツアーを行ったらどうか。
- ・限定品コロッケを作ってはどうか。

○市長

- ・今が、「龍ヶ崎コロッケ」にとって、販路拡大の絶好の機会となっていると考えています。しかし「龍ヶ崎コロッケ」を作っている店はとても繁盛していて、店主は先のことも考えることができないような状況になっています。

○団体

- ・市がホローして「龍ヶ崎コロッケ」をさらに広め、龍ヶ崎市のイメージアップを図っていくことが、市役所の本来の役割ではないですか。
- ・龍ヶ崎市のイメージアップとして、JR佐貫駅名を龍ヶ崎に変更するとの話がありますがどうなっていますか。

○市長

- ・「龍ヶ崎コロッケ」を広めるために、市でできることがあればやっていきたいと考えています。
- ・駅名変更については、牛久沼や佐貫駅周辺のランドデザインを描く中で検討されていくものと考えています。

○団体

- ・花を育てるための水を小貝川からポンプを使って汲み上げていましたが、水利権の問題があるので禁止されています。高齢でも有り、バケツやペットボトルを使って、水を汲み上げてくるには限界があります。

○市

・水利権は、慣習などもあり難しい問題です。八間堀川の水利権がどのようになっているかは不明ですが、この水を利用することに対して市が裁量する余地がないので、担当課から河川管理事務所に再確認をさせます。

○団体

・近くに県南水道の管がきているので、ここから取水ことはできませんか。

○市

・県南水道の水を、今管理されている植栽の水に利用すると多額となることから、現段階では難しいと考えております。

終了